

神 垣 小 児 科

TEL 71 - 3400

FAX 74 - 2801

- アトピー - 性皮膚炎患児をもつ保護者のために -

アトピー - 性皮膚炎



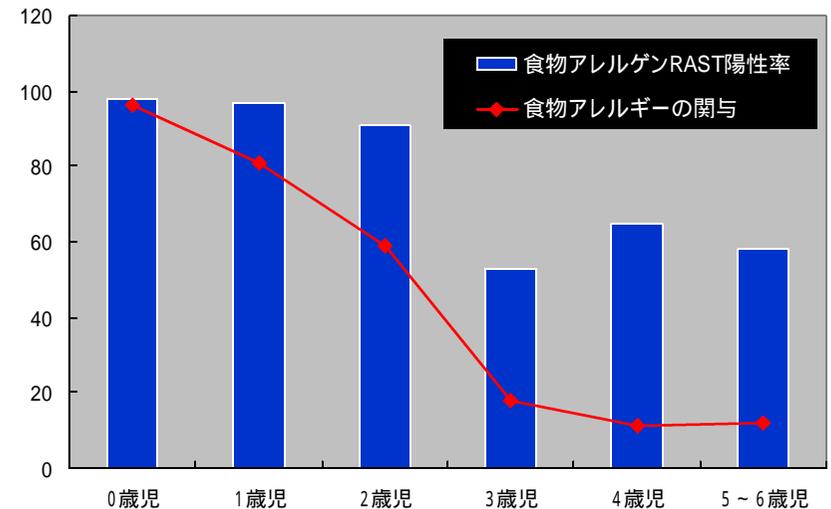
アトピー - 性皮膚炎ってどんな病気？

- かゆみを伴う発疹が繰り返し繰り返し出現します。
- 発疹は顔や首、肘や膝のくぼみにあらわれやすく、ひどくなると全身に広がることもあります。
- 約80%の患者さんは5歳までに症状があらわれます。
- 「アトピー - 体質」という遺伝的な要素が関係しています。
- 気管支喘息、アレルギー - 性鼻炎などにかかりやすい傾向があります。

アトピー性皮膚炎は
アレルギー疾患の
一つです



食物は制限した方がいいの？



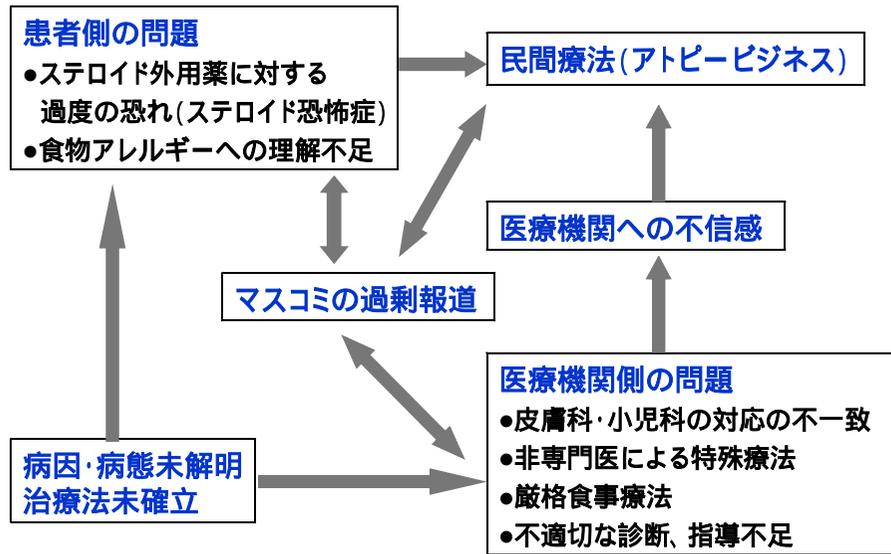
年齢と共にアトピー - 性皮膚炎の原因や悪化因子としての食物アレルギー - の関与は少なくなっていきます。また、血液中の食物に対する抗体（アレルギー特異的IgE抗体・IgERAST）が陽性だからアレルギー - があるということでもありません。

食物に対してアレルギー - を起こさないようになることを、「耐性を獲得する」といいますが、このグラフでも示されているように一般的には3歳頃になると多くの子どもは耐性を獲得します。

ですから、子ども一人一人の状態に合わせて、明らかに食物アレルギー - が存在すると思われる場合には、2～3歳を目途に、必要最低限の食物の制限をすればよいと思われます。

自分で勝手に制限しないで、医師と相談の上、定期的に経過を見ながら制限したり解除したりしていきましょう。

アトピー - 性皮膚炎治療の問題点は？

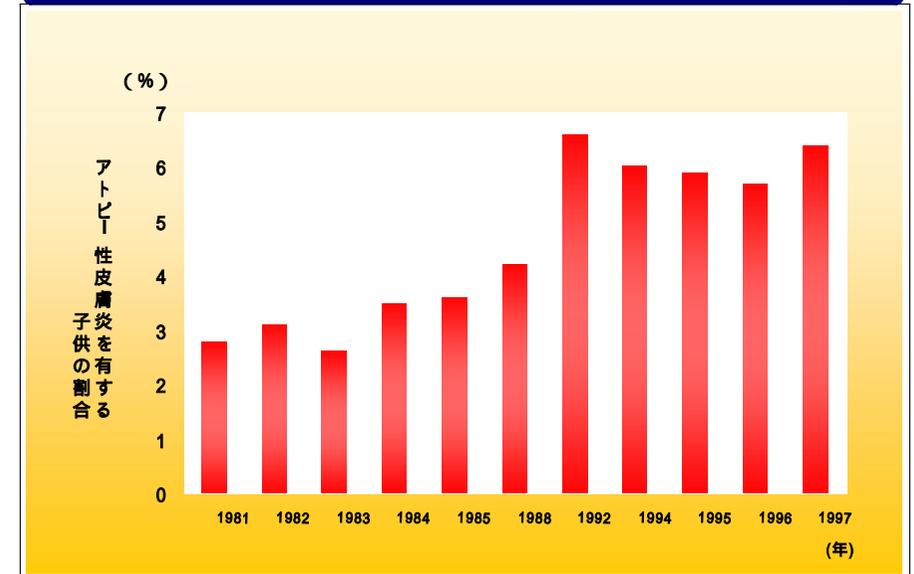


アトピー - 性皮膚炎の病因・病態および治療法が完全に確立されておらず、なかなか治りづらいために、いわゆる「アトピー - ビジネス」といった民間療法が広く行われています。たとえば、酸性水、温泉水、漢方薬、自然食品、健康食品など多くの種類があります。もちろん、すべてが悪い、効果がないわけではありませんが、不適切な治療も多く見られます。医療機関が関与している例もあります。マスコミの責任、患者さん側の問題もありますが、医療機関側の問題も大きいと思われます。特に食事療法については、いまだに確立された方法がなく、試行錯誤の状態といえます。あまりに厳格な方法をとらず、経過をみながら進めていくことが肝要です。

★ 増えているの？ ★

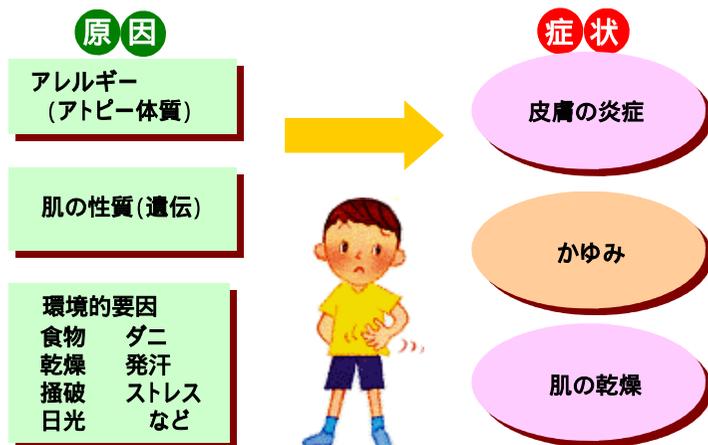
アトピー - 性皮膚炎、気管支喘息、アレルギー - 性鼻炎などアレルギー - 反応が原因で起こる疾患を「アレルギー - 疾患」と呼びますが、近年、アレルギー - 疾患は世界的に増加傾向が見られます。下の図のように、愛知県で行われた調査によりますと、1981年に2.8%であったものが、1992年には6.6%と約10年で2倍強に増加したと報告されています。調査によって差はありますが、おおよそ10~20%の子どもがアトピー - 性皮膚炎にかかっています。

アトピー - 性皮膚炎有病率の年代別推移 (対象：4~15歳児)



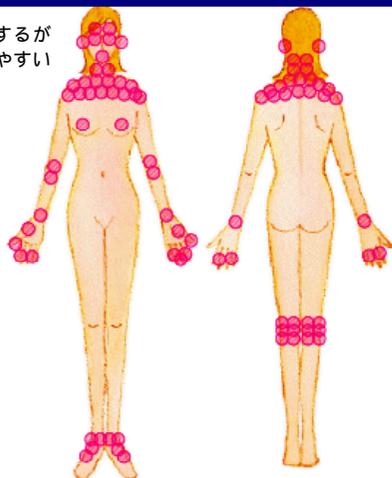
アトピー - 性皮膚炎の原因と症状は？

アトピー - 体質といってアレルギー - を起こしやすい体質とともに、ドライスキン（乾燥肌）という肌の性質をもちあわせていることが大きな原因です。それに、食物やダニ、乾燥、発汗、皮膚を引っ掻くといった種々の要因が加わって、アトピー - 性皮膚炎が発症します。



皮膚症状があらわれやすい部位

どの部位にも出現するが
●の部位に特にしやすい



ステロイド外用薬の副作用は？

ステロイド外用薬は強さ、剤型（軟膏、クリーム、ロションなど）の違うものが数多くあります。重症度に加え、それぞれの発疹の部位と状態および年齢に応じて使い分けをします。

ステロイド外用薬を使うときの注意点

- ・ 悪い時には1日に少なくとも3回塗り、良くなれば回数を減らしたり作用の弱いステロイド外用薬に変更する
- ・ 症状の程度に応じて、適宜ステロイドを含まない外用薬（保湿剤などを含む）に変更したり併用したりする
- ・ 必要に応じて抗ヒスタミン薬、抗アレルギー薬を併用する
- ・ 長期間だらだらと使用しないで、医師に相談の上、中止あるいは変更を考える。そのためには定期的に通院する
- ・ 一般的に子どもでは成人に比べて作用の弱いステロイド外用薬を使用する

可能性のある全身性の副作用

のみ薬や注射薬は全身的にステロイドが作用するため、全身性の副作用が起こります。ぬり薬でも起こらないとはいえませんが、血液を通じずに患部に直接作用するため、副作用の起こる頻度は非常に低くなります。

可能性のある皮膚に対する副作用

直接皮膚に影響する副作用

- くすりを塗った部分に毛が増える
- 血管が拡張して皮膚が赤くなる
- 皮膚が萎縮して薄くなる
- にきび（顔・胸に使用している場合）

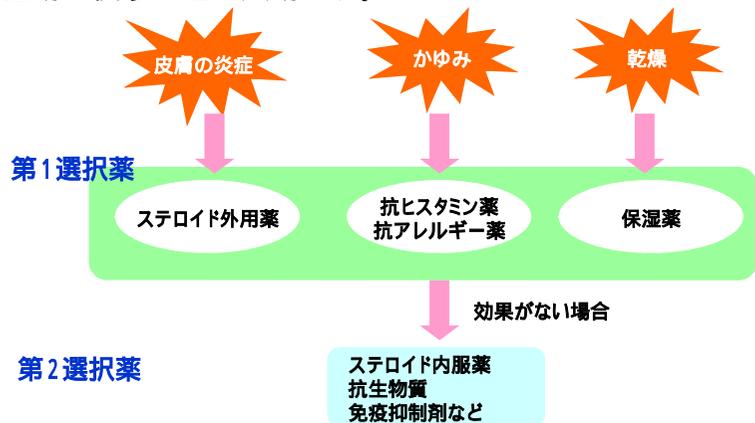
免疫能力を抑えるために起こる副作用

- すでにある細菌感染が悪化する
- 水虫が悪化する
- ヘルペスウイルス感染症が悪化する
- 水いぼが増える

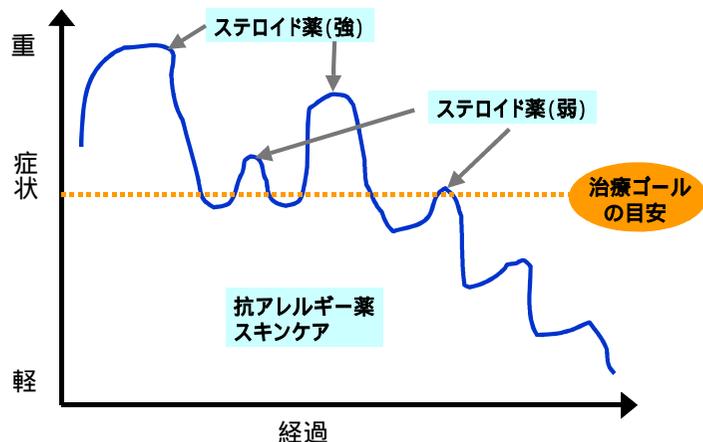
このような皮膚の副作用は、症状がおさまって薬をぬらなくなると通常数ヵ月から1年ほどで徐々に回復していきます。

おくすりは？

現在アトピー - 性皮膚炎の炎症を抑える薬として、最も優れた効果を持つのはステロイド外用薬です。第1選択薬としてステロイド外用薬を適切に使うことが大切です。



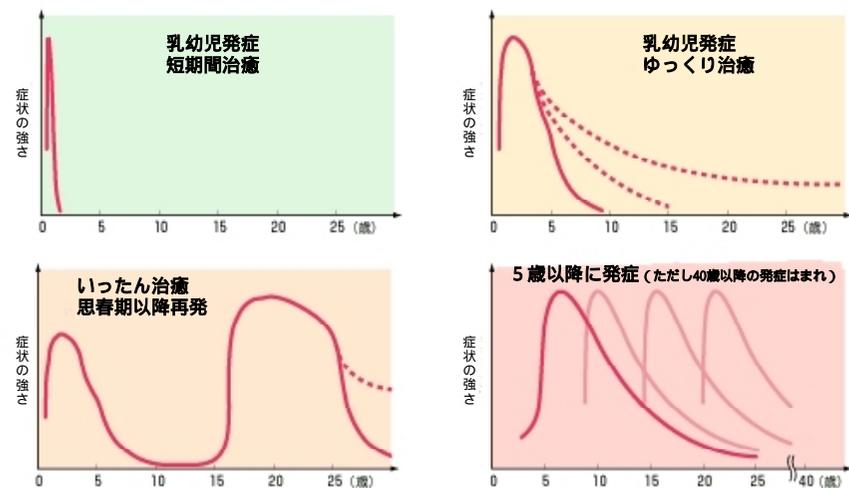
炎症が強い場合は作用の強いステロイド薬を、炎症が弱い場合は作用の弱いステロイド薬を用います。炎症が抑えられ治療ゴールの目安より症状がかるくなったら、抗アレルギー薬とスキンケアでコントロールしていきます。このように症状に応じて薬を使い分けることが大切です。



ずっと続くの？

症状のあらわれ方には個人差があります。乳幼児に発症して短期間で治る人から、ゆっくり経過して大人まで続く人、いったん治った後でまた悪くなる人など様々です。

また年齢によって症状のあらわれ方が違うのも特徴です。



乳児期



幼児期

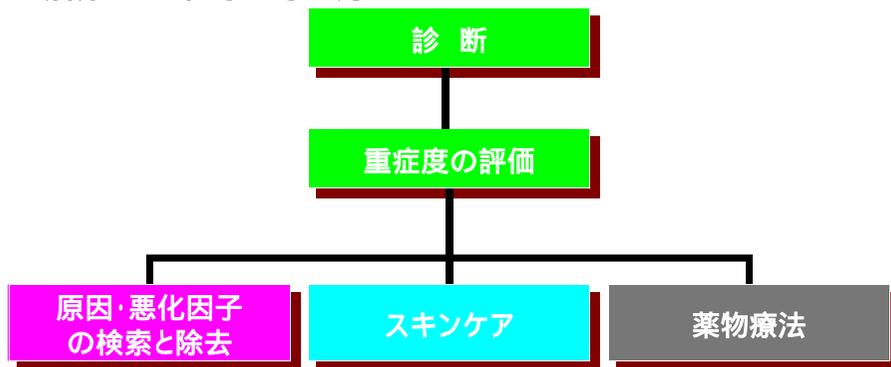


小児期



治療は？

治療の基本的な考え方



原因・悪化因子（症状を悪化させる要素）



年齢や患者さんによって悪化因子は異なります。乳幼児期は食べ物（特に卵）が悪化因子となることがよくありますが、乳幼児期を過ぎると、ダニ、ハウスダスト、カビなどの環境的な要素が悪化因子となりやすくなります。こういった悪化因子を減らすことが大切です。

スキンケアはどうすればいいの？

皮膚の清潔 - 毎日の入浴・シャワ - が大切です



- ・ 毎日の入浴、シャワーで汗や汚れは速やかにおとす
- ・ 石鹸・シャンプーを使用するときは洗浄力の強いものや香料など刺激成分の入っているものは避ける。普通の浴用石鹸やベビ - 石鹸でよい。素手で洗いごしごしこすらない
- ・ 石鹸・シャンプーは残らないように十分にすすぐ
- ・ かゆみを生じるほどの高い温度の湯は避ける
- ・ 沐浴剤・入浴剤は体に合ったものを使う
- ・ 入浴、シャワ - 後にはぬり薬をぬりなおす

衣類と寝具に気をつける



- ・ 衣類は木綿がお勧め。チクチク、ゴワゴワのものは避ける。新しい肌着は使用前に水洗いする
- ・ 洗剤、柔軟剤や漂白剤にも注意
- ・ 痒みがひどい時には長袖や長ズボンを着せる
- ・ 室内を清潔にし適温・適湿を保つ。布団はこまめに干す(ダニ予防)
- ・ 日光で悪化するようなら日よけ対策をする

遊びとスポ - ツについて



- ・ 砂遊びや水遊びの後は必ず石鹸で手を洗う
- ・ スポ - ツ（スイミングも）の後など汗をかいた時は出来るだけシャワ - を浴びる
- ・ 皮膚に刺激を与える遊び（肘や膝をつく遊び、鉄棒など）に注意

その他



- ・ 爪を短く切りきれいにしておく
- ・ 髪の毛は顔にかからないようにする
- ・ かゆみが強いときには叩いたり冷たいタオルで冷やしたりする